みずかん通信

令和４年 **盛暑** 発行

２０２２年の真夏がやってきました。毎日毎日、気絶しそうなくらい暑い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。水環境館は涼しくて過ごしやすいので、ぜひお越しください。

さて、去る7月２３日に「紫川ながれ隊」を開催しました。仰向けに手足を広げた体勢(フローティングポジション)を学ぶとともに、川へ飛び込んだり、生き物探しをするという夏を目一杯満喫するイベントです。この日はあいにくの曇りで気温も低く、長い時間水に浸かるのが厳しい日でしたが、それでも全身で夏を感じることができました。

毎年、ゴールデンウィークを過ぎたあたりから、水難事故に関する報道が増えてきます。警視庁が今年6月に発表した「令和3年における水難の概況」の発生件数推移を見てみると、年間４５００件以上の水難事故が発生した昭和５０年以降は平成１０年代半ばまで下降線をたどっていますが、平成１５年以降は年間１５００件前後でほぼ横ばいに推移しており、令和３年は１３９５件の水難事故が発生しています。また、子どもの死者・行方不明者が発生した水難事故の発生場所を示すグラフを見ると、年によって多少のばらつきはありますが、５～６割を河川が占めており、海や湖沼よりも倍近く高い数値となっています

川は時に自然の厳しさを見せつけてくることもありますが、それを補って余りあるほどの恵みも与えてくれます。川に入って遊ぶということも、生態系サービスを存分に享受しているということです。しかし、ひとたび水難事故が発生すると、「川に入ってはいけません」という看板が設置されたり、注意喚起がされるなどして、子どもたちが水に親しむ機会が徐々に減ってしまいます。川に行くときはまず、天気予報を確認してください。予報が晴れでも雲行きが怪しくなってきたら川から上がりましょう。川に入るときはライフジャケットとヘルメットを装備しましょう。そして一番大事なことは子どもたちだけで川に入らないことです。他にも細かな注意点を挙げればキリがありませんが、リスクをできるだけ小さくして遊ぶのなら、川に入ることは決して悪いことではありません。ぜひみなさんも水難事故に気を付けて、川へ出かけてみてください。

紫川ながれ隊！を開催しました

7/23に「紫川ながれ隊！」を開催しました。途中、若干の小雨が降る曇り空でしたが、川に飛び込んだり、ジャングル探検のように草木をくぐったりと、夏を満喫できました！

全員でラジオ体操したあとは、川ぼうず館長直伝のフローティングポジション講座。

ゆっくり入水して、流れに身を任せて泳ぎます。スタッフも夏休み気分満喫です。

川へ向かってジャンプ！実は紫川にもこんなに思いっきり飛び込みができるポイントがあるのです。

冒頭にも触れたとおり、安全対策をすれば川遊びは素晴らしい体験です。天気、水温、危険生物、装備品、熱中症、低体温症と、気をつけるべき点はたくさんありますが、「楽しかった！」と言える思い出にするために、しっかりと注意して川遊びを満喫してください。

日本初!? お城カヌープロジェクト 乞うご期待！

小倉の賑わいづくりの一環として水環境館が企画している「小倉城お堀カヌー」のプレイベントを実施しました。

城とカヌーの不思議な組み合わせは滅多に見られるものではありません。このお堀カヌーの本番は9/17・18・19の３日間予定しています。詳細は水環境館HPをご覧ください。

夏も秋もイベントたくさん♪

みずべのゆうぐれコンサート

9月30日(金)　18:00～19:30予定

水環境館の対岸にある親水広場がコンサート会場になります。キッチンカーも出店する予定ですので、アコースティックな音楽を聴きながら、夕暮れのひと時をお過ごしください。

※詳細は決まり次第HPに掲載します

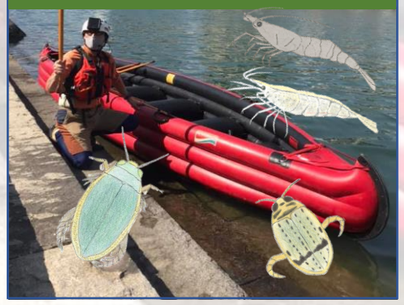
出演/green bell(グリーンベル)

水辺の生き物調査 ～響灘ビオトープ編～

9月11日(日)　時間未定

秋の生き物調査は10人乗りの「Eボート」に乗っていろんな生き物を観察します。

※予約はHPから。時間や人数は決まり次第HPに掲載します



カヌー体験 in 紫川 ＆カヌーツーリング in 紫川

カヌー体験：1人1000円
ツーリング：1人2000円
※1人乗りは小学4年生以上
※2人乗りは3歳以上(保護者同伴)

(日程はHPやチラシをご覧ください)

かいくんの おさかなトーク ～マサバ編～

「紫川にサバがいる」というと驚く方もおられることでしょう。実際、私も水環境館の前でサバが釣れることを、今年の6月に初めて知りました。とある釣りイベントで竹竿の簡単な仕掛けでアジを釣っていた時、明らかに泳ぐ速さの違う魚が撒餌に猛突進してくるのが見えました。なかなか針にかかりませんでしたが、何とか釣り上げてみると、それは紛れもなくマサバでした。よくよく考えてみれば、岸からも簡単に釣れる魚ですし、水環境館前の水は海水とほぼ同じ濃度だし、そもそもアジが群れているわけですから、サバがいてもおかしくないのですが、初めて河口で釣れた時は驚いたと同時に、河口の面白さにも改めて気づかされました。欲を言えば、観察窓からも姿を拝みたいと思っているのですが、まだ見たことがありません。

一般的なサバは50cm程度の魚ですが、実は大きいものでは3mを越えるマグロの仲間や、刀のような体形のタチウオなどもサバの仲間に含まれます。その多くが水産上重要な種で、あらゆる加工品なども含め、みなさんに日頃から利用されているグループです。

マグロに代表されるように、サバの仲間は常に泳ぎ続けて広い範囲を回遊する種が多くいます。マサバも例に漏れず、泳ぎ続けないと呼吸が出来ず、底に沈んで死んでしまいます。このように、口とえらを開けたまま泳ぎ、常に新鮮な海水を通しながら呼吸する方法を「ラム換水」といい、マグロだけでなくカジキの仲間や沖合を回遊するサメの仲間にも見られます。私も仕事に対しては、黙々と泳ぎ続ける彼らを見習っていたいものです。みなさんもマサバに会いに、紫川に出かけてみませんか？

福田海輝(かいくん)
日本産魚類と全国の市民会館が好き。小学校から8年くらい水泳を習っていましたが、最終的に水が怖くなって辞めました。

性格もサバサバしてるんでしょうか…

～飼育員の戯言～「仲良しだと思ってたけど…」

水環境館には10匹のカメが一緒に暮らす大きな水槽があります。他のカメの背中に乗ったり、顔を蹴ったり蹴られたり、互いに干渉せず仲良く暮らしていたのですが、「ある出来事」を境に、その関係が崩れてしまいました。

その出来事とは、あるカメによる「求愛」です。一緒に暮らすカメの中に、オスとメスのアカミミガメがいるのですが、そのオスがメスに向かって求愛をはじめました。カメの求愛は、オスがメスの正面に回り込み、向かい合った状態で前足をプルプル振るわせるという動きなのですが、それもむなしくメスにその気はないようで無視されっぱなし。一途な愛を伝えていたものの、ついに爆発したのか、とにかく他のカメを追っかけては噛もうとしています。これではほかのカメが怪我をしてしまうということで、そのオスのカメも今では一人暮らししてもらっています。

飼育員として、生き物のあらゆる欲を出来る限り満たしてあげたいという思いがありますが、さすがにその全てを叶えてあげるのは難しいことです。1匹で水槽に入っていると「一人ぼっちでかわいそう」と思うかもしれませんが、お互いを傷つけないために、別れて暮らすというのも答えのひとつです(心当たりがある人も多かったりして…)。その分、私自身がその双方の味方であり続ける覚悟で接しています。

ちなみに、元々単独飼育しているのはまずスッポンで、背中が固い甲羅で覆われていないため、他のカメの爪で傷つけれないことが目的です。もう一種は「ハナガメ×ニホンイシガメ交雑種」というカメです。生きたままの輸送や放流、飼育が禁じられている「特定外来生物」のハナガメと、日本固有種ニホンイシガメの交雑個体も法律上、特定外来生物という扱いです。申請の関係で飼育する場所を動かすのが困難なので、一人で暮らしています。

ちなみに、カメもかなり個性があります。一日中見ていても飽きません。よく観察すると、カメそれぞれの関係性が見えて来るかもしれませんよ。

一人暮らし中のカメさん

水環境館
RIVER MUSEUM

住　所　/　北九州市小倉北区船場町1-2
開館時間　/　10:00～19:00　休館日　/　原則火曜日(長期休暇期間中除く)・年末年始
お問い合わせ　/　093-551-3011
指定管理者　/　玄海グリーン＆アドベンチャー共同企業体

http://mizukankyokan.jp